

# 主要な公共施設情報（意見等追加版）

1. 総合体育館
2. 温水プール
3. 吉田グラウンド・弓道場
4. テクノスポーツドーム  
（ありそドーム）
5. 桃山運動公園
6. 天神山野球場
7. 新川学びの森天神山交流館
8. 歴史民俗博物館・吉田記念郷土館
9. 埋没林博物館
10. 水族博物館
11. 保育園（8園）
12. 地区公民館（13館）
13. 旧小学校（4校）

# 公共施設の改修・更新コスト試算のルール

公共施設の改修・更新コストの試算は、魚津市公共施設再編方針に基づいて行っております。  
基本的な考え方や単価については、以下のとおりです。

## ①耐用年数の考え方

- ・耐用年数を60年とします。
- ・これは、法定耐用年数ではなく、適切な管理・改修による長寿命化を前提とした目標耐用年数となります。

【参考】法定耐用年数の例

- ・鉄筋コンクリート（事務所用）：50年
- ・鉄骨造（事務所用、骨格材4mm以上）：38年
- ・木造（事務所用）：24年

## ②改修の考え方

- ・20年に一度、中規模改修を行うものとします。
- ・中規模改修工事の試算は、以下の数式にて一律に算出したものです。  
＝38,000円×延床面積（㎡）

（過去に中規模改修工事を行わないまま40年以上を経過したものは、改修を行わずに法定耐用年数が来た時点で建て替えを行うなど、個別の事情により判断）

## ③耐震改修の考え方

- ・再編方針において廃止となっている建物を除き、基本的に耐震改修済です。
- ・残りの施設は耐震改修を行いませんが、一部、参考として試算を掲載します。  
＝50,000円×延床面積（㎡）

## ④建替工事の考え方

- ・耐用年数の60年を迎えた時点で、同規模で建て替えを行うものとします。
- ・建替工事の試算は、以下の数式にて一律に算出したものです。  
＝250,000円×延床面積（㎡）（※水族館等、一部を除く）

（過去に中規模改修工事を行わないまま40年以上を経過したものは、改修を行わずに法定耐用年数が来た時点で建て替えを行うなど、個別の事情により判断）

# 1. 総合体育館

# 【廃止】

## 魚津市公共施設再編方針

- ・老朽化が進み耐震性もないことから、小中学校や他の施設にある体育館の活用などを視野に入れ、小学校の統廃合に合わせて廃止する。  
(目標年度：平成30年度)

## 進捗状況

- ・指定管理（魚津市体育協会）期間が平成32年度（R2）末までとなり、それまでに廃止した場合の影響を把握しながら、対応を検討する。

## 収支状況

平成29年度収支 ▲2,748万円  
(収入 324万円 支出 3,072万円)

適正な運営をするために必要な利用料は・・・？（利用者の負担のみで運営する場合）

例) 体育館利用、ランニングコース利用共通 1回 一般 100円 → 950円  
生徒・児童 20円 → 190円

## 再編方針に沿って進めた場合の試算

- ・維持費：毎年約2,700万円が不要  
(5年で約1億3,500万円)

### ★施設情報

建築年度：昭和50年（築後44年経過）

延床面積：4,560㎡

耐震性：なし

利用者数：延べ75,860人（平成29年度）

利用者層：市内の利用者が主。午前は一般向けの教室、  
夕方以降は部活・団体利用が多い。

開館時間：午前9時～午後9時

### 【近隣の類似施設と再編方針】

- ・ありそドーム（テクノスポーツドーム）【維持】
- ・小中学校、地区体育館（17館）【維持】
- ・学びの森交流館体育館【廃止】
- ・黒部市総合体育センター（体育館200円）

# 1. 総合体育館

# 【廃止】

代替施設があるので廃止してもよいのではないか。

- ・代替施設があるので、維持管理の費用面等を考慮すると廃止もやむなしと考えるが、利用者が多いことも事実であることから、調整を要します。

人口規模から市内にありそドームと合わせて2施設がある状態はおかしいのではないか。

- ・ありそドームは年間約27万人が、市総合体育館は約8万人が利用しており、本市において2つの施設がある状態はおかしいとは考えていません。

再編方針では平成30年度を目標として廃止としているが、なぜ達成に至っていないのか。

- ・経緯として、市総合体育館も利用者が多いことから、代替施設として旧小学校の体育館を想定しており、小学校の統廃合完了時期にあわせて2年間廃止を延長した経緯があります。

## その他の試算

- ・耐震性はないが、法定耐用年数（47年=R4）が近いいため、耐震化は行わない。（耐震改修工事費：約2億2,800万円）
- ・同様の理由で中規模改修は行わない。（同規模で建て替えした場合、20年に1度、約1億7,300万円が必要）
- ・建替試算額は、約11億円。

廃止の場合、現在の利用者に代替案を示す必要があるのではないか。

- ・旧小学校の体育館の利活用を含め、代替案の提案は必要と考えます。それでも大きな大会では市内だけで行えないケースも生じると想定しています。

子ども向けスポーツスクール、高齢者向け介護予防教室など、既存利用者の代替施設の確保が課題である。

- ・既存利用者の意見を踏まえながら、利用者のニーズになるべく合う施設の検討が必要です。

代替施設としての旧小学校の利用は現実的に可能か。旧小学校の利用案はよく耳にするが、実現に至らない理由は何か。

- ・代替施設としての旧小学校体育館の利用は、利用料金を含めた検討が必要と考えています。現在、旧小学校の体育館は市民に対し無料で開放しているところであり、市総合体育館の代替施設として利活用していきたいと考えています。

## 類似施設との比較

### 【財政補てん（収支差額）の規模】

魚津市体育館 1億1,400万円（ただし、**総合体育館、ありそドームの合計額**）  
黒部市体育館 1億2,100万円（総合体育センター）

### 【利用料金】

・ 体育館	魚津市総体	100円（一般）
	ありそドーム	210円（一般）
・ トレーニングルーム	黒部市総体	200円（一般）
	ありそドーム	410円（一般）
	黒部市総体	300円（一般）

# 2. 温水プール

# 【建替】

## 魚津市公共施設再編方針

- ・老朽化が進み耐震性もないことから、平成30年度までに温水プールの建替えを行うこととし、耐震化は行わない。
- ・温水プールの整備及び管理運営の手法については、民間活力の活用を視野に入れながら行う。  
(目標年度：平成30年度)

## 進捗状況

- ・指定管理（魚津市体育協会）期間が平成32年度（R2）末までとなっている。
- ・建設にあたっては、他の大型建設事業と実施年度が重ならないよう調整。
- ・魚津市スポーツ推進審議会からの建議（答申）や平成30年2月に実施したサウンディング型市場調査の結果を踏まえ、基本構想の策定を進めている。
- ・今年度、PFI導入可能性調査を実施。

## 収支状況

平成29年度収支 ▲1,836万円  
(収入 315万円 支出 2,151万円)

適正な運営をするために必要な利用料は・・・？（利用者の負担のみで運営する場合）

例) 1回 一般 210円 → 1,440円  
生徒・児童 100円 → 690円

## 再編方針に沿って進めた場合の試算

- ・建設費：約10億円

(建設年度の支出は約1億7,000万円。補助金は約3億3,000万円。  
残りの約5億円は借金となり、翌年度以降、毎年約2,000万円を25年間返済。)

### ★施設情報

建築年度：昭和53年（築後41年経過）

延床面積：2,151㎡

耐震性：なし

利用者数：延べ41,748人（平成29年度）

利用者層：市内の利用者が主。日中は個人の一般・

高齢者、午後からは部活や教室利用が多い。

開館時間：平日PM1時～PM9時、日祝AM10時～PM5時

### 【近隣の類似施設と再編方針】

- ・学校プール 【維持】
- ・スポーツアカデミー（月会費6,800円）（民営）
- ・S-QOL（月会費10,500円[ジム等含む]）（民営）
- ・黒部市温水プール（2時間300円）

# 2. 温水プール

## 【建替】

市内民間施設で2つ、近隣市にもプールがある中、新たに整備する必要はないのではないか。

- ・ 保育園や幼稚園、小中学校における水泳指導での活用や市民の健康増進、水泳競技等の競技力向上等の観点から、充足しているわけではないと考えています。
- ・ 小学校プールの将来的なあり方は、併せて検討していくべきと考えています。

小学校のプール等で機能代替すべきではないか。

- ・ 小学校のプールも老朽化が顕著となっており、また屋内や温水対応ではないため、年間を通じた利用ができません。

民間スポーツクラブによる運営を検討すべきではないか。

- ・ 現在、一般募集による指定管理を実施しており、民間のスポーツクラブの応募があればと考えているところです。

### その他の試算

- ・ 耐震性はないが、法定耐用年数（47年=R7）が近いいため、耐震化は行わない。  
（耐震改修工事費：約1億800万円）
- ・ 同様の理由で中規模改修は行わない。  
（同規模で建て替えした場合、20年に1度、約8,200万円が必要）
- ・ 建替試算額は、約10億円。  
（プールの特殊性等により、単純に単価×延床面積とはなっていない）

保育園活動や部活動を含む既存利用者の代替施設の確保が課題である。

- ・ ご意見のとおりと考えております。

現在は体協のバスによる送迎があるが、送迎がなくなった場合、遠方居住者と近傍居住者とで不公平感が生まれるのではないか。

- ・ ご意見のとおりと考えております。

ありそドームに併設し、利用料増や観光施設としての一体的な利活用を行うことで、運営の適正化につながるのではないか。

- ・ ご意見も一案と考えており、今後、PFI導入可能性調査の中で検討していきたいと考えています。

### 類似施設との比較

#### 【財政補てん（収支差額）の規模】

魚津市営プール	1,800万円
黒部市営プール	4,600万円

#### 【利用料金】

魚津市市営プール	210円	（一般）
黒部市市営プール	300円	（一般）
S-QOL	10,500円	（月会費、ジム等含む）
スポーツアカデミー	6,804円	（月会費、プール会員）

# 3. 吉田グラウンド・弓道場

【維持】

## 魚津市公共施設再編方針

- 隣接する総合体育館や温水プールの方針を踏まえ、管理に支障のない場合は引き続き維持していく。  
(目標年度：平成30年度)

## 進捗状況

- 指定管理（魚津市体育協会）期間が平成32年度（R2）末までとなっている。

## 収支状況

平成29年度収支 ▲75万円  
(収入 3万円 支出 78万円)

適正な運営をするために必要な利用料は・・・？（利用者の負担のみで運営する場合）

例) 吉田グラウンド	一般	30円	→	790円
弓道場	一般	無料	→	50円

## 再編方針に沿って進めた場合の試算

- 維持費：毎年約80万円が必要  
(5年で約400万円)

### ★施設情報

建築年度：吉…昭和39年（築後55年経過）  
弓…平成9年（築後22年経過）  
延床面積：吉…103㎡（敷地面積25,336㎡）  
弓…197㎡  
耐震性：吉…なし 弓…あり

利用者数：延べ6,510人（平成29年度）  
利用者層：市内の利用者が主。部活は平日夕方と休日、  
その他は一般個人の利用者が主。  
開館時間：午前8時半～午後9時

### 【近隣の類似施設と再編方針】

- 桃山運動公園 【維持】
- 小中学校、地区グラウンド（15面） 【維持】
- 黒部市多目的グラウンド（1時間150円）

# 3. 吉田グラウンド・弓道場

【維持】

収入がほとんどない施設は廃止、もしくは適正な利用料を徴収するべきではないか。

- ・施設管理費用等、負担に応じた利用料金の徴収については、検討すべきと考えます。なお、施設の廃止については利用者等の意見を伺いながら、対応策を示す等、しっかりと検討しながら判断すべきと考えます。

総体・プールがなくなるとすれば、維持管理や跡地利用の面から廃止が適当なのではないか。

- ・立地条件は非常に良いので、他の利用も検討できるものと考えます。

弓道場は代替施設があるのか。

- ・弓道場は現在、市内に1か所しかなく、代替施設もありません。廃止となる場合には関係団体等へ説明し、理解を得ることが必要です。

その他の試算

【吉田グラウンド】

- ・耐震性はないが、法定耐用年数を過ぎているため、耐震化は行わない。  
(耐震改修工事費：約500万円)
- ・同様の理由で中規模改修は行わない。  
(同規模で建て替えした場合、20年に1度、約400万円が必要)
- ・建替試算額は、約2,600万円。

類似施設との比較

- (コスト等が比較可能な類似施設がない)

【弓道場】

- ・耐震性あり
- ・中規模改修費として20年に1度、約750万円が必要  
(20年目未実施のため、長期維持の場合は、1度目を早急に行う必要がある。)
- ・建替試算額は、約4,900万円。

# 4. テクノスポーツ（ありそ）ドーム

【維持】

## 魚津市公共施設再編方針

- ・長期的な視野に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図りながら、引き続き維持していく。
- ・管理運営費に見合った利用料金への見直しを行う。  
(目標年度：平成47年度 (R17))

## 進捗状況

- ・指定管理（魚津市体育協会）期間が平成32年度（R2）末までとなっている。

## 収支状況

平成29年度収支 ▲8,636万円  
(収入 4,118万円 支出 12,754万円)

適正な運営をするために必要な利用料は・・・？（利用者の負担のみで運営する場合）

例) バドミントンコート1面（2時間）

一般 210円 → 660円

児童・生徒 100円 → 310円

ランニングコース

一般 100円 → 310円

トレーニングルーム

一般 410円 → 1,270円

## 再編方針に沿って進めた場合の試算

- ・維持費：毎年約8,600万円が必要  
(5年で約4億3,000万円)

### ★施設情報

建築年度：平成9年（築後22年経過）

延床面積：12,154㎡

耐震性：あり

利用者数：延べ270,643人（平成29年度）

利用者層：市外の利用者も多い。平日の日中は一般・  
高齢者の利用が多く、それ以外は団体利用。

開館時間：午前8時半～午後9時半

### 【近隣の類似施設と再編方針】

- ・総合体育館 【廃止】
- ・小中学校、地区体育館（17館） 【維持】
- ・学びの森交流館体育館 【廃止】
- ・黒部市総合体育センター（体育館200円、TR300円）

# 4. テクノスポーツ（ありそ）ドーム

## 【維持】

（総体廃止による超過需要等が想定されることなどをふまえて、）利用料金の適正化による収入増を図るべきではないか。

- ・施設管理にかかる費用や必要な利用者負担、近隣自治体の類似施設との比較等、様々な要因を検討しながら、利用料金の適正化を図っていきたくて考えています。

他分野のテナントを入れることによって収入増加を図るべきではないか。

- ・テナントについては、現在、飲食店として一事業所が入っているところです。今のところ他にはテナントが入るスペースはありませんが、新たな可能性として検討していきたくて考えています。

展望台の活用、もしくは廃止を検討すべきではないか。

- ・当施設の展望台については市内に唯一存在する全天候型の展望台ではないかと考えています。費用対効果を鑑みながら、今後の利活用について、引き続き検討していきたくて考えています。

### その他の試算

- ・耐震性あり
- ・中規模改修費として20年に1度、約4億6,200万円が必要。  
（20年目未実施のため、長期維持の場合は、1度目を早急に行う必要がある。  
40年目は、R19年度。）
- ・建替試算額は、約30億3,900万円。

民間に類似施設の多いトレーニングルームや、展望台などを廃止すべきではないか。

- ・当施設において、トレーニングルームは収入全体の約47%（平成29年度）を占めており、廃止すると収入の大幅な減が想定されます。現在は民間の類似施設との比較等を行いながら、利用者ニーズの住み分けや利用料金の適正化等を図っていく必要があると考えます。

類似施設等の比較のもとで、利用料や開館時間の見直しを検討したことはあるか。また、それらを検討するうえで課題と考えられる点は何か。

- ・平成30年度に周辺類似施設との比較を行い、指定管理者と意見交換しながら、利用料の見直しを検討し、平成31年10月の消費税増税時期を目指して、改正案を作成してきたところです。
- ・開館時間の見直しは検討していません。課題は、現在の利用者に見直し内容について理解をどう得るかだと考えています。

### 類似施設との比較

#### 【財政補てん（収支差額）の規模】

魚津市体育館 1億1,400万円（ただし、**総合体育館、ありそドームの合計額**）  
黒部市体育館 1億2,100万円（総合体育センター）

#### 【利用料金】

・体育館	魚津市総体	100円（一般）
	ありそドーム	210円（一般）
・トレーニングルーム	黒部市総体	200円（一般）
	ありそドーム	410円（一般）
	黒部市総体	300円（一般）

# 5. 桃山運動公園

## 【維持】

### 魚津市公共施設再編方針

- ・長期的な視野に立って施設の整備・補修計画を策定し、施設の長寿命化を図りながら、引き続き維持していく。
- ・管理運営費に見合った利用料金への見直しを行う。  
(目標年度：平成47年度 (R17) )

### 進捗状況

- ・指定管理（魚津市体育協会）期間が平成32年度（R2）末までとなっている。

### 収支状況

平成29年度収支 ▲6,354万円  
(収入 731万円 支出 7,085万円)



適正な運営をするために必要な利用料は・・・？  
(利用者が半分を負担し、残りの半分以上を税金で運営する場合)

例) テニスコート 1面	(1時間)	一般	410円 → 2,000円
野球場	(1時間)	一般	1,080円 → 5,240円
陸上競技場	(2時間)	一般	100円 → 490円
運動広場全面	(半日)	一般	2,710円 → 13,140円

### 再編方針に沿って進めた場合の試算

- ・維持費：毎年約6,400万円が必要  
(5年で約3億2,000万円)

#### ★施設情報

建築年度：昭和62年（築後32年経過）

延床面積：6,409㎡

耐震性：あり

利用者数：延べ72,481人（平成29年度）

利用者層：夕方と休日は小学生～一般の利用が多い。

平日の日中は一般～高齢者の個人利用が主。

開館時間：午前8時半～午後9時半

#### 【近隣の類似施設と再編方針】

- ・吉田グラウンド 【維持】
- ・小中学校、地区グラウンド（15面） 【維持】
- ・天神山野球場 【維持】
- ・黒部市多目的グラウンド（1時間150円）

# 5. 桃山運動公園

## 【維持】

(吉田グラウンドや天神山野球場の廃止により超過需要が想定されることなどをふまえて) 利用料金の適正化により収入増を図るべきではないか。

- ・施設管理にかかる費用や必要な利用者負担、近隣自治体の類似施設との比較等、様々な要因を検討しながら、利用料金の適正化を図っていきたいと考えています。

ロケーションを活用した運営を行うべきではないか。

- ・公園としても魅力UPにつながる運営方針を引き続き検討していきたいと考えています。

類似施設等の比較のもとで、利用料や開館時間の見直しを検討したことはあるか。また、それらを検討するうえで課題と考えられる点は何か。

- ・平成30年度に周辺類似施設との比較を行い、指定管理者と意見交換しながら、利用料の見直しを検討し、平成31年10月の消費税増税時期を目指して、改正案を作成してきたところです。
- ・開館時間の見直しは検討していません。課題は、現在の利用者に見直し内容について理解をどう得るかだと考えています。

### その他の試算

- ・耐震性あり
- ・中規模改修費として20年に1度(=R9)、約2億4,400万円が必要。(20年目は未実施)
- ・建替試算額は、約16億200万円。

代替可能な施設ではないか。

隣接市にも代替施設(宮野運動公園)があることから廃止すべきではないか。

- ・桃山陸上競技場は日本陸上連盟の第2種公認陸上競技場であり、県内では3ヶ所(桃山、五福、小矢部市)と隣接市にはない競技場です。また、芝生の運動広場を有し、ラグビーやサッカー等、一般のフットボール競技イベントを同時に2ヶ所で開催することができます。他にも8千人を超える観客を収容できる野球場、全て照明付で、人工芝8面を完備するテニスコート、テニス(コート2面分)やフットサルもできる1400㎡の屋内グラウンド等を有しています。新川地区では最大の運動公園であり、代替可能な施設はないと考えています。

### 類似施設との比較

#### 【利用料金】

・野球場	魚津桃山運動公園	17,280円	(アマ有料、1日、一般)
	黒部市宮野運動公園	13,000円	(アマ有料、1日、一般)
	砺波市総合運動公園	27,260円	(アマ有料、1日、一般)
・陸上競技場	魚津桃山運動公園	64,800円	(アマ有料、1日)
	小矢部市陸上競技場	64,800円	(アマ有料、1日)
・運動広場	魚津桃山運動公園	5,400円	(アマ無料、1日、一般、全面)
	黒部市宮野運動公園	2,000円	(アマ無料、1日、一般、全面)
	砺波市多目的競技場	9,050円	(アマ無料、1日、一般、全面)
・庭球場	魚津桃山運動公園	410円	(1面、1時間、一般)
	黒部市宮野運動公園	300円	(1面、1時間、一般)
	立山町総合運動公園	410円	(1面、1時間、一般、町内)
・屋内G	立山町総合運動公園	510円	(1面、1時間、一般、町外)
	魚津桃山運動公園	1,020円	(全面、1時間、一般)
	立山町総合運動公園	1,020円	(全面、1時間、一般、町内)
	立山町総合運動公園	1,260円	(全面、1時間、一般、町外)

# 6. 天神山野球場

## 【維持】

### 魚津市公共施設再編方針

- 施設の更新時期を見据え、必要最低限の施設を更新していく。  
(目標年度：平成47年度 (R17))

### 進捗状況

- 指定管理（魚津市体育協会）期間が平成32年度（R2）末までとなっている。

### 収支状況

平成29年度収支 ▲454万円  
(収入 24万円 支出 478万円)

適正な運営をするために必要な利用料は・・・？  
(利用者が半分を負担し、残りの半分で税金で運営する場合)

例) 午前	一般	200円	→	1,970円
午後	一般	320円	→	3,140円
夜間照明	一般	1,050円	→	10,300円

### 再編方針に沿って進めた場合の試算

- 維持費：毎年約500万円が必要  
(5年で約2,500万円)

#### ★施設情報

建築年度：昭和53年（築後41年経過）

延床面積：62.1㎡

耐震性：一部なし

利用者数：延べ22,790人（平成29年度）

利用者層：市内一般男性の利用が主。

夏は大学女子野球で市外の女性利用が増える。

開館時間：午前9時～午後9時

#### 【近隣の類似施設と再編方針】

・ 桃山運動公園 【維持】

・ 早月川緑地公園 【維持】

・ 小中学校、地区グラウンド（15面） 【維持】

・ 黒部市多目的グラウンド（1時間150円）

# 6. 天神山野球場

## 【維持】

利用料を増額するべきではないか。

- ・施設管理にかかる費用や必要な利用者負担、近隣自治体の類似施設との比較等、様々な要因を検討しながら、利用料金の適正化を図っていきたいと考えています。

地区や野球協会等による管理を行うべきではないか。

- ・現在の管理費用は主に光熱水費であり、地区や野球協会等が管理しても、同等の費用を要するものと想定しています。

大学女子野球の開催や、学びの森を含めた合宿機能についても考慮する必要があるのではないかと考えています。

- ・ご意見のとおりと考えております。

その他の試算

- ・一部、耐震性はないが、法定耐用年数を過ぎているため、耐震化は行わない。  
(耐震改修工事費：約300万円)
- ・同様の理由で中規模改修は行わない。  
(同規模で建て替えした場合、20年に1度、約200万円が必要)
- ・建替試算額は、約1,600万円。

他の場所で代替可能ではないか。(一方で、小学校グラウンドは競技が可能なもの・不可能なものがあるといった指摘もある)

- ・当施設は野球では2面、ソフトボールでは4面として利用可能です。そうしたことから、大きな大会となると、(本施設を除く)小中学校等のグラウンドだけでは対応は難しいことが予想されます。また小中学校等は駐車場が少なく、夜間照明も充分ではありません。

類似施設等の比較のもとで、利用料の見直しを検討したことはあるか。また、それらを検討するうえで課題と考えられる点は何か。

- ・平成30年度に周辺類似施設との比較を行い、指定管理者と意見交換しながら、利用料の見直しを検討し、平成31年10月の消費税増税時期を目指して、改正案を作成してきたところです。
- ・開館時間の見直しは検討していません。課題は、現在の利用者に見直し内容について理解をどう得るかだと考えています。

類似施設との比較

【財政補てん(収支差額)の規模】

天神山野球場	500万円
大沢野野球場(富山市)	160万円(照明設備なし)

【利用料金】

天神山野球場	430円(一般、午前4H)
天神山野球場	220円(一般、午後6H)
天神山野球場	2,160円(一般、夜間、照明あり)
大沢野野球場	1,450円(大人、2H)

# 7. 新川学びの森天神山交流館

## 【一部廃止】

### 魚津市公共施設再編方針

- ・年間を通じた稼働率が低い体育施設、宿泊施設及び食事施設は廃止する。
- ・管理運営費に見合った利用料金への見直しを行う。  
(目標年度：平成35年度 (R5))

### 進捗状況

- ・指定管理（魚津市施設管理公社）期間が平成32年度（R2）末までとなっており、今後のあり方や利用料金の見直しについて検討。
- ・個別型サウンディング調査を実施。官民連携による魅力向上や活性化に向けた事業について、また、施設の活用や連携について対話を実施。

### 収支状況

平成29年度収支 ▲5,036万円  
(収入 1,220万円 支出 6,256万円)

適正な運営をするために必要な利用料は・・・？（利用者の負担のみで運営する場合）

例) 小研修室、音楽練習室（3時間） 620円 → 1,590円  
体育室（3時間） 1,640円 → 4,200円

### 再編方針に沿って進めた場合の試算

- ①維持費：一部廃止により、毎年約1,200万円が不要  
(5年で約6,000万円)  
(※全体の維持費約5,000万円を面積で按分して算出)
- ②維持費：存続施設の維持に約3,800万円が必要

#### ★施設情報

建築年度：昭和55年（築後39年経過）

延床面積：10,253㎡

耐震性：一部なし

利用者数：延べ47,739人（平成29年度）

利用者層：約半数が音楽利用目的。約3割が市外利用者。

開館時間：午前9時～午後10時

#### 【近隣の類似施設と再編方針】

・新川文化ホール（ミラージュホール）【維持】

・地区公民館（13館）【維持】

・黒部市民会館（小会議室3時間：690円）

# 7. 新川学びの森天神山交流館

## 【一部廃止】

周辺自治体を含めても希少価値が高いため、使用料増は受け入れられやすいのではないかと考えます。

- ・平成30年度に指定管理者とともに利用料金の見直しを検討し、交流館利用者での意見交換では、ある程度の増額をご理解はいただいております。

一部廃止は非効率的であり、廃止にするならば全廃止とするべきではないかと考えます。

- ・料金収入のある施設の一部廃止により、さらなる利用者減少につながると想定しているため、効率的ではないと考えています。

音楽方面の機能が充実しているため、機能維持については旧小学校を有効活用するべきではないかと考えます。  
(新川文化ホールとは利用者層も利用形態も異なっており、簡単に代替はできない)

- ・交流館の音楽設備は旧小学校より充実しており、同程度の設備を旧小学校にもたせるためには、ある程度の改修等が必要であり、効率的ではないと考えます。
- ・双方施設の強みを生かしながら、さらなる相乗効果を図っていきけるよう努力します。

### その他の試算

- ・耐震性はないが、法定耐用年数(47年=R9)が近いいため、耐震化は行わない。  
(耐震改修工事費：約7,740万円)
- ・中規模改修費として20年に1度(=R2)、約3億9,000万円が必要。  
(20年目は未実施)
- ・建替試算額は、約25億6,300万円。

#### 【主な内訳】

本館：15億1,380万円、音楽練習棟：2億4,600万円、  
宿泊棟：2億5,600万円、食堂棟：1億5,500万円、体育館：2億8,800万円

宿泊施設は活用可能性が大きいですが、老朽化もしていることから改修し、宿泊者にとって魅力ある施設とするべきではないかと考えます。

- ・魅力ある宿泊施設への改修は理想ですが、市内には民間の宿泊施設も多く、市による実施は難しいのではないかと考えます。

私立学校や専門学校等を誘致してはどうかと検討しています。

- ・交流館の有効活用のための一案と考えます。

類似施設等の比較のもとで、利用料や開館時間の見直しを検討したことはあるかと考えます。また、それらを検討するうえで課題と考えられる点は何かと考えます。

- ・平成31年10月の消費税増税時期を目指して、改正案を作成してきたところです。開館時間の見直しについては、6月より閉館時間の短縮を試行的に実施し、その可能性について検討していきたいと考えています。

### 類似施設との比較

#### 【財政補てん(収支差額)の規模】

新川学びの森交流館	5,000万円
黒部市ふれあい交流館(あこや~の)	4,000万円

#### 【利用料金】

- |       |       |        |                            |
|-------|-------|--------|----------------------------|
| ・大研修室 | 学びの森  | 4,220円 | (全日、冷暖房別途)                 |
|       | あこや~の | 3,490円 | (全日)                       |
| ・体育室  | 学びの森  | 5,760円 | (全日)                       |
|       | あこや~の | 4,320円 | (全日)                       |
| ・宿泊室  | 学びの森  | 1,030円 | (冷暖房別途)                    |
|       | あこや~の | 2,320円 | (大学生1,230円、高校生1,020円ほか定め有) |

# 8. 歴史民俗博物館・吉田記念郷土館

【維持】

## 魚津市公共施設再編方針

- ・中・長期的に組織強化及び施設の再編を図り、魚津の地形や富山湾の特性を活かした3館の事業を連携しながら、引き続き維持していく。
- ・歴史民俗博物館は、施設の更新時期を見据えながら、小学校跡地へ機能集約する。  
(目標年度：平成47年度 (R17))

## 進捗状況

- ・適正な管理に努める。

## 収支状況

平成29年度収支 ▲977万円

(収入 なし 支出 977万円)

適正な運営をするために必要な利用料は・・・？

(利用者が半分を負担し、残りの半分で税金で運営する場合)

例) 一般

無料 → 600円

## 再編方針に沿って進めた場合の試算

- ・維持費：毎年約1,000万円が必要

(5年で約5,000万円)

### ★施設情報

建築年度：昭和47年（築後47年経過）

延床面積：2,387㎡

耐震性：一部なし

利用者数：延べ7,441人（平成29年度）

利用者層：市外からの利用が約半数を占める。

小学生以下と高齢者が多い。

開館時間：午前9時～午後5時

### 【近隣の類似施設】

・うなづき友学館（大人300円/中学生以下無料）

・滑川市立博物館（無料）

# 8. 歴史民俗博物館・吉田記念郷土館

【維持】

無料であっても見に行きたいと思う魅力がない。

- ・ご意見を真摯に受けとめます。ただし、当館の利用者にアンケートをとっていますが、見学者のご意見では、企画展を中心に好評を得ているものもあります。

利用者数に対して運営が手厚いのではないか。

- ・施設の管理、収蔵資料の管理保管を含めたもので、かかる経費のほとんどは人件費及び光熱費、警備等の施設管理費であり、最低限の費用で運営していると考えています。

吉田記念郷土館は廃止、歴史民俗博物館は米騒動関連と集約すればよいのではないか。

- ・郷土館は民間から寄附を受けての施設であり、廃止には慎重に検討していく必要があります。公共施設の集約化は様々な関連する団体や関係課と協議しながら検討する必要があります。

その他の試算

- ・一部、耐震性はないが、法定耐用年数を過ぎているため、耐震化は行わない。  
(耐震改修工事費：約3,580万円)
- ・同様の理由で中規模改修は行わない。  
(同規模で建て替えした場合、20年に1度、約9,100万円が必要)
- ・建替試算額は、約6億円。

民間譲渡や跡地活用を検討すればどうか。

- ・博物館の敷地は借地であり、跡地活用は地権者の同意が必要です。

機能集約先は学校にこだわらず、図書館や埋没林等に機能を移し、移転先の入館者増加につなげてはどうか。(もっと市民等の目に触れやすい場所)

- ・展示機能のみの移転は可能だが、多くの収蔵品(指定文化財含む)の維持管理の場所、集約施設での追加工事が必要になってくる等、様々な課題があります。地域に残された郷土資料等は膨大な量であり、それらを後世に残す機能をもつ施設は必要であると考えます。

類似施設との比較

【財政補てん(収支差額)の規模】	
魚津市歴史民俗博物館	900万円
黒部市歴史民俗資料館	900万円

# 9. 埋没林博物館

## 【維持】

### 魚津市公共施設再編方針

- ・中・長期的に組織強化及び施設の再編を図り、魚津の地形や富山湾の特性を活かした3館の事業を連携しながら、引き続き維持していく。
- ・埋没林博物館は、特別天然記念物指定の関係から、既存の場所で平成26年度にリニューアルを行う。（目標年度：平成47年度（R17））

### 進捗状況

- ・平成26年度及び平成30年度にリニューアル済。

### 収支状況

平成29年度収支 ▲6,868万円  
(収入 1,302万円 支出 8,170万円)

適正な運営をするために必要な利用料は・・・？  
(利用者が半分を負担し、残りの半分以上を税金で運営する場合)

例) 一般 520円 → 850円  
小・中学生 260円 → 430円

### 再編方針に沿って進めた場合の試算

- ・維持費：毎年約6,900万円が必要  
(5年で約3億4,500万円)

#### ★施設情報

建築年度：平成3年（築後28年経過）

延床面積：3,589㎡

耐震性：あり

利用者数：延べ31,750人（平成29年度）

利用者層：市内外の団体利用が主。

ファミリー・カップルの利用が近年増加。

開館時間：午前9時～午後5時

#### 【近隣の類似施設】

・ほたるいかミュージアム

入館料：3月中旬～5月 大人800円/小人400円

6月～3月中旬 大人600円/小人300円

# 9. 埋没林博物館

## 【維持】

水族館へ埋没林博物館を集約してはどうか。  
もしくは、歴史民俗博物館など、他の機能を集約できないか。

- ・ 特別天然記念物として現在の博物館敷地が指定地となっており、現地で、出土したままの状態を保存展示することに意義があるため、場所を移すことはできない。
- ・ 他機能の集約については、収蔵スペース、展示スペースが限られ、多少の歴史系の展示はできたとしても機能の集約とまではいかない。

機能縮小や経費削減を図れないか。例えば、管内全部を無料として支出の大幅カットを図れないか。受付等の人数が過剰ではないかといった声を聞く。人件費の節減を図れないか。

- ・ 無料化しても施設設備の維持費は変わらず、入場料収入がなくなるので、人件費の削減効果もほぼない。（無料化しても館内まったく無人にできるということはない）
- ・ 窓口の発券、入館者への順路等の案内、30分ごとの映像ホールの対応、館内見回り等が主な業務だが、建物が分散していることもあり4人/日は必要。冬季は減員している。

デザイン性の高い施設であることなどを活用し、貸館などの多目的利用を検討してはどうか。

- ・ 映像ホールと研修室の有料での貸出を今年度から実施している。また利用料の設定はないが、エントランスホールなども婚活イベント等に活用されている。

### その他の試算

- ・ 耐震性あり
- ・ 建替試算額は、約8億9,700万円。
- ・ 中規模改修費として20年に1度、約1億3,600万円が必要。  
(20年目未実施のため、長期維持の場合は、1度目を早急に行う必要がある。  
40年目は、R14年度。)

※H26、H30にリニューアルを実施しているが、長寿命化に資するものではない。

無料ゾーン・有料ゾーンそれぞれの入館者数推移の状況はどうなっているか。

- ・ 有料エリア利用者は、28年度（総入館者＝有料エリア利用者）比で116.7%（29年度は長期休館があり比較できない）。無料エリアを含む総入館者（センサーカウンター値）では245.9%。

一般客には訴求力が弱いのではないか。

- ・ 観光施設という観点でいえば、埋没林という素材にいかにも魅力を感じてもらえるか、難しさはある。蜃気楼に関してはニーズがある。

類似施設等の比較のもとで、利用料や開館時間の見直しを検討したことはあるか。また、それらを検討するうえで課題と考えられる点は何か。

- ・ 一般的な地方の博物館として、他地域等との比較をしたことは何度かある。利用料については標準的と認識している。開館時間については、無料エリアの時間見直しを検討している。

### 類似施設との比較

【財政補てん（収支差額）の規模】	
魚津埋没林博物館	6,000万円（入館料収入1,300万円）
地底の森ミュージアム（仙台市）	9,200万円（入館料収入800万円）
三瓶自然館（島根県）	2億7,000万円（入館料収入2,600万円）
【利用料金】	
魚津埋没林博物館	520円（小中学生260円）
地底の森ミュージアム	460円（高校生230円、小中学生110円）
三瓶自然館	400円（高校生以下200円、企画展期間は増額）

# 10. 水族博物館

【維持】

## 魚津市公共施設再編方針

- ・中・長期的に組織強化及び施設の再編を図り、魚津の地形や富山湾の特性を活かした3館の事業を連携しながら、引き続き維持していく。
- ・改修・改築、新築移転の検討を早急に進める。  
(目標年度：平成47年度)

## 進捗状況

- ・適正な管理に努める。

## 収支状況

平成29年度収支 ▲1億1,053万円  
(収入 7,788万円 支出 1億8,841万円)

適正な運営をするために必要な利用料は・・・？ (利用者の負担のみで運営する場合)

例) 一般	750円	→	1,320円
小・中学生	410円	→	720円
幼児	100円	→	180円

## 再編方針に沿って進めた場合の試算

- ・維持費：毎年約1億1,000万円が必要  
(5年で約5億5,000万円)

【参考：同規模の施設で新築移転する場合】

建設費：約29億円 (建設年度の支出は7億円。残りの22億円は借金となり、翌年度以降、毎年8,800万円を25年間返済。)

### ★施設情報

建築年度：昭和55年 (築後39年経過)

延床面積：4,114㎡

耐震性：一部なし

利用者数：延べ149,067人 (平成29年度)

利用者層：県内の幼児とその家族が主。

開館時間：午前9時～午後5時

### 【近隣の類似施設】

・のとじま水族館 (入館料：一般1,850円)

・上越市立水族館 (入館料：一般1,800円)

# 10. 水族博物館

## 【維持】

魅力向上と合わせた入館料の適正化（増額）を図るべきでは。（利用者層やサービス等の違いから、近県の水族館との比較は難しいとの意見も）

- ・大規模リニューアル等による魅力向上をして入館料を増額するという機会がなかった。昭和56年開館時の料金であり、増額する価値はあると思っている。施設が老朽化する中で施設存続に向け、入館料増額は必要と考える。

ターゲットに基づき展示内容を検討すべきではないか。（子育て面での魅力向上や「100年前の水族館」をテーマとした内装整備など）

- ・平成25年のリニューアルでは、幼児や小学校低学年をメインターゲットとし、家族でくつろげるように展示更新し、「うおすいファミリーウム」等での楽しく学べる企画展やイベント等を開催している。館内バリアフリー化やふれあい体験の増設等、子育て世代向けに整備したら良い箇所はあるが、改修には費用がかかる。

他市町村にはないものなので、市外から来てもらえるような工夫が必要なのではないか。

- ・ホームページ、Instagram等、公式SNSは早くから導入している。さらに、様々な情報をマスコミに流しており、多くの番組や記事に取り上げられている。
- ・富山湾の魚を食べる食事施設があれば、市外のお客様がより増えると思われる。

### その他の試算

- ・一部を除いて耐震性あり。
- ・中規模改修費として20年に1度（=R2）、約1億5,600万円が必要。（20年目は未実施）
- ・建替試算額は、約28億8,000万円。（水族館の特殊性等により、単純に単価×延床面積とはなっていない）

子どもが小さいうちは良いが、現在の入館料ではわざわざ行こうという魅力を感じない。

- ・興味のない人は料金にかかわらず入館しないので、興味のある人が入館するような仕掛けが必要だと思っている。公式SNS、マスコミ、市広報等により広報しているが、市民でも知っている方は少ないと思われる。学びの場、憩いの場、楽しみ場として利用しただけのよう、企画やイベント内容及び広報活動について、検討している。

県が射水市に水族館を整備するのであれば、廃止を検討してもよいのではないか。

- ・日本一歴史のある魚津水族館を継承していくことが重要であると考えている。

類似施設等の比較のもとで、利用料や開館時間の見直しを検討したことはあるか。また、それらを検討するうえで課題と考えられる点は何か。

- ・料金値上げの検討はしてきているが、近隣施設等のように大規模リニューアルに伴う利用料増額という機会がなかった。逆に、魚津市の財政状況が厳しい中、施設や設備の修繕や維持費のためといった理由で、今年は料金値上げをするチャンスとも考えられる。
- ・開館時間については、過去に時間延長をいろいろなタイミングで実施したが入館者数はほとんど増えず、費用対効果が認められなかった。

### 類似施設との比較

#### 【財政補てん（収支差額）の規模】

魚津博物館	1億1,000万円（入場料収入8,000万円）
上越市立水族館	1,000～2,000万円（H30・31上越市予算を参考に）
のとじま水族館	－（管理運営法人決算資料から収益施設とみられる）

#### 【利用料金】

魚津水族館	750円（小中学生410円、幼児100円）
上越市立水族館	1,800円（高校生1,100円、小中学生900円、幼児500円ほか）
のとじま水族館	1,850円（中学生以下510円ほか）

# 11. 保育園（8園）

## 【統廃合・民営化・維持】

### 魚津市公共施設再編方針

- ・平成35年度までに保育園の統廃合を進めるとともに、民間へのシフトを図る。
- ・当面維持していく保育園で耐震化が必要な施設は、平成30年度までに耐震化を行う。（目標年度：平成35年度）

### 収支状況

平成29年度収支 ▲5億3,453万円  
(収入 8,798万円 支出 6億2,251万円)

### 進捗状況

- ・平成32年度から住吉保育園を民営化。
- ・平成31年度末で西布施保育園を閉鎖。
- ・野方保育園は耐震診断未実施。

### 今後の方針

- ・小規模園となる片貝、松倉、野方保育園について、利用実態を見ながら、将来の園のあり方を検討する。

### ★施設情報（平成29年度）

	建築年度	延床面積	耐震性	園児数	収支	
・道下保育園	昭和56年	897m <sup>2</sup>	あり	76名	▲1億円	☆
・青島保育園	昭和56年	1,066m <sup>2</sup>	あり	94名	▲1億円	☆
・経田保育園	平成3年	719m <sup>2</sup>	あり	80名	▲8千万円	
・住吉保育園	昭和50年	635m <sup>2</sup>	なし	47名	▲5千万円	
・松倉保育園	平成16年	455m <sup>2</sup>	あり	30名	▲5千万円	
・西布施保育園	昭和47年	409m <sup>2</sup>	なし	18名	▲5千万円	
・野方保育園	昭和49年	622m <sup>2</sup>	なし	41名	▲5千万円	
・片貝保育園	平成13年	331m <sup>2</sup>	あり	17名	▲5千万円	

開園時間：午前7時半～午後6時（☆延長保育有り）

### 【市内の類似施設と再編方針】

	地区	定員	方針等
・大町幼稚園	大町	80名	【維持】
・魚津保育園	大町	100名	(民間) ☆
・魚津第二保育園	本江	160名	(民間) ☆
・上口保育園	住吉	110名	(民間) ☆
・認定こども園川原保育園	大町	52名	(民間) ☆
・認定こども園吉島保育園	加積	160名	(民間) ☆
・かづみ認定こども園	加積	175名	(民間) ☆
・幼保連携型認定こども園 ほんごうこども園	本江	135名	(民間) ☆
・幼保連携型認定こども園 天神保育園	天神	120名	(民間) ☆

# 12. 地区公民館（13館）

【維持】

## 魚津市公共施設再編方針

- ・原則として、公民館機能は耐震性のある小学校跡地へ機能集約し、既存公民館の耐震化は行わない。

（目標年度：平成35年度）

※学校施設を活用するためには、建築基準、消防法令の対応に伴う改修が必要であり、その費用が高額である。

## 進捗状況

- ・片貝公民館 ⇒平成28年度移転。旧片貝小学校を改修して使用。
- ・西布施公民館 ⇒旧西布施小学校を取り壊し、平成29年度、公民館・地域活性化センター新築。
- ・村木公民館 ⇒平成30年度移転。旧村木小学校を改修し、公民館、教育センター等を集約。

## 再編方針に沿って進めた場合の試算

- ① 維持費：毎年、一館あたり約600～900万円、全館で約1億円が必要（5年で約5億円）
- ②-1 改修費：旧学校施設を利用する場合、高額な改修費用が必要。（村木公民館の例では約9,000万円、片貝公民館の例では約4,000万円）
- ②-2 建設費：規模にもよるが、約1億7,000万円（西布施公民館）～約5億円（本江公民館見込み）程度必要。

### ★施設情報

	建築年度	延床面積	耐震性	収支（H29）	建築年度	延床面積	耐震性	収支（H29）	
・大町公民館	昭和56年	1,055㎡	あり	▲800万円	・加積公民館	平成12年	164㎡	あり	▲1,200万円（収支は農村環境改善センター含む）
・村木公民館（旧村木小学校）	昭和63年	3,577㎡	あり	▲600万円	・道下公民館	昭和63年	844㎡	あり	▲700万円
・下中島公民館	昭和58年	505㎡	あり	▲900万円	・経田公民館	昭和57年	945㎡	あり	▲700万円
・上中島公民館	昭和58年	384㎡	なし	▲500万円	・天神公民館	昭和55年	1,047㎡	あり	▲800万円
・上野方公民館	昭和50年	529㎡	あり	▲700万円	・西布施公民館	平成29年	1,294㎡	あり	▲700万円
・本江公民館	昭和54年	823㎡	なし	▲900万円	・松倉公民館	昭和47年	450㎡	あり	▲600万円
・片貝公民館（旧片貝小学校）	平成13年	2,920㎡	あり	▲900万円					

# 13. 旧小学校（4校）

## 【利活用・売却】

### 魚津市公共施設再編方針（小学校）

- ・教育環境の充実を図るため、長期的には小学校を2校とすることも視野に入れながら、平成35年度までに小学校を4校に統合する。
- ・閉校予定の小学校であっても、現在通学している児童の安全面を考慮し、耐震化が必要な校舎等は耐震化を行う。
- ・閉校となる小学校の跡地へ地域の主要施設を中心に機能集約を行い、地域の活性化を図る。
- ・新設校に集約できる機能は集約していく。

（目標年度：平成35年度）

### 進捗状況

- ・平成28年度 清流小学校開校  
（吉島小学校を改修。  
片貝、西布施小学校閉校。）
- ・平成30年度 よつば小学校開校  
（本江小学校を取り壊し、同敷地内に新築。  
大町、村木、上野方小学校閉校。）
- ・平成31年度 星の杜小学校開校  
（住吉小学校を取り壊し、同敷地内に新築。  
上中島、松倉小学校閉校。）
- ・【済】片貝小学校 ⇒改修し、公民館として使用
- ・【済】西布施小学校 ⇒取壊、公民館・地域活性化センター新築
- ・【済】村木小学校 ⇒改修し、公民館、教育センター等を集約
- ・上野方小学校 ⇒平成30年、サウンディング型市場調査を実施

### ★施設情報

	建築年度	延床面積	耐震性
・大町小学校	昭和47年	5,120㎡	あり
・上中島小学校	昭和53年	2,677㎡	あり
・松倉小学校	昭和57年	2,266㎡	あり
・上野方小学校	昭和44年	3,077㎡	あり

※学校施設を活用（例えば、公民館を移設）するためには、建築基準、消防法令の対応に伴う改修が必要であり、その費用が高額である。

※再編方針において「小学校跡地へ機能集約」となっている本江公民館、上中島公民館は耐震補強がされていない。